

京三中・山城高同窓会 会報

双ヶ丘



創刊号 2009/02/27

目次

創刊にあたって	1
創刊にあたり祝辞	1
思い出	2
京三中と私	3
卒業の思い出	5
ナツメロと私	6
校歌謡初の日	7
百均の立ち飲み店	8
第二号の発行に向けて	8
初めての同窓会の報告	9
生涯を母校の傍で	9
卒業一年生として	10
各年次の取組み紹介	11
彙報	12
本部より	12
俯瞰図	12
裏表紙	

紙分組

表紙写真説明

「命」 二年生 佐々木 亮二

草書創作の授業で仕上げました。
自分で文字を選び、かすれを生かして
ダイナミックに書く事を意識しました。

2020/03/27

目次	ページ
前巻	1
本巻	2
卒業生へのメッセージ	3
卒業生へのメッセージ	4
卒業生へのメッセージ	5
卒業生へのメッセージ	6
卒業生へのメッセージ	7
卒業生へのメッセージ	8
卒業生へのメッセージ	9
卒業生へのメッセージ	10
卒業生へのメッセージ	11
卒業生へのメッセージ	12
卒業生へのメッセージ	13
卒業生へのメッセージ	14
卒業生へのメッセージ	15
卒業生へのメッセージ	16
卒業生へのメッセージ	17
卒業生へのメッセージ	18
卒業生へのメッセージ	19
卒業生へのメッセージ	20
卒業生へのメッセージ	21
卒業生へのメッセージ	22
卒業生へのメッセージ	23
卒業生へのメッセージ	24
卒業生へのメッセージ	25
卒業生へのメッセージ	26
卒業生へのメッセージ	27
卒業生へのメッセージ	28
卒業生へのメッセージ	29
卒業生へのメッセージ	30
卒業生へのメッセージ	31
卒業生へのメッセージ	32
卒業生へのメッセージ	33
卒業生へのメッセージ	34
卒業生へのメッセージ	35
卒業生へのメッセージ	36
卒業生へのメッセージ	37
卒業生へのメッセージ	38
卒業生へのメッセージ	39
卒業生へのメッセージ	40
卒業生へのメッセージ	41
卒業生へのメッセージ	42
卒業生へのメッセージ	43
卒業生へのメッセージ	44
卒業生へのメッセージ	45
卒業生へのメッセージ	46
卒業生へのメッセージ	47
卒業生へのメッセージ	48
卒業生へのメッセージ	49
卒業生へのメッセージ	50
卒業生へのメッセージ	51
卒業生へのメッセージ	52
卒業生へのメッセージ	53
卒業生へのメッセージ	54
卒業生へのメッセージ	55
卒業生へのメッセージ	56
卒業生へのメッセージ	57
卒業生へのメッセージ	58
卒業生へのメッセージ	59
卒業生へのメッセージ	60
卒業生へのメッセージ	61
卒業生へのメッセージ	62
卒業生へのメッセージ	63
卒業生へのメッセージ	64
卒業生へのメッセージ	65
卒業生へのメッセージ	66
卒業生へのメッセージ	67
卒業生へのメッセージ	68
卒業生へのメッセージ	69
卒業生へのメッセージ	70
卒業生へのメッセージ	71
卒業生へのメッセージ	72
卒業生へのメッセージ	73
卒業生へのメッセージ	74
卒業生へのメッセージ	75
卒業生へのメッセージ	76
卒業生へのメッセージ	77
卒業生へのメッセージ	78
卒業生へのメッセージ	79
卒業生へのメッセージ	80
卒業生へのメッセージ	81
卒業生へのメッセージ	82
卒業生へのメッセージ	83
卒業生へのメッセージ	84
卒業生へのメッセージ	85
卒業生へのメッセージ	86
卒業生へのメッセージ	87
卒業生へのメッセージ	88
卒業生へのメッセージ	89
卒業生へのメッセージ	90
卒業生へのメッセージ	91
卒業生へのメッセージ	92
卒業生へのメッセージ	93
卒業生へのメッセージ	94
卒業生へのメッセージ	95
卒業生へのメッセージ	96
卒業生へのメッセージ	97
卒業生へのメッセージ	98
卒業生へのメッセージ	99
卒業生へのメッセージ	100

創刊にあたって

同窓会長山城2回 森 貞男



この度、以前から話題となっていた「同窓会報」を発刊することになりました。

創立百年を越えて歴史を有する山城高校では、年々同窓会員も在校生との年齢差が増し、世代の違いを感じるが多くなっています。この際、お互いをより良く理解し、今後ますます母校が発展していくよう、是非とも学校時代の様子や忌憚のない御意見等を気軽に寄稿していただければ幸いです。

世の中の流れはとどまることなく進んで行きます。同じような流れは周期的にやって来るようですが、同じではありません。人の記憶や考え方はその人の経験によって異なっているものですが、おしなべて同じように年寄は若者に対して「今どきの若い奴はなっていない。末が案じられる。」と。そう云われた青年は「時代おくれの年寄が何をえらそうにぬかしやがつて」と反発するが、その青年も年を重ねてくると同じように「きょうびの若い奴らは……」という。

日進月歩、目をみはる科学の進歩は世の中を変えて行きます。しかし人間の本质は変わりません。生まれた時から才能の片鱗をうかがわせる人はいても、急に立ち上がって走ったり、言葉で話せる人

はいません。その後のその人の努力や訓練によって、才能は開発されて行くものです。道具や薬に頼っても宣伝通りにはなりません。

数十億の人々が地球上に存在しますが、同じ人間は二人といません。その人独特の才能はその人本人だけのものです。だから自分を大切に自分を鍛えていくためにもいろいろな知識が必要です。尽きることなく自分を磨いていく一助として会報を育てていきましょう。

創刊にあたり祝辞

学校長 谷野 二郎

このたび創立百年を機として、京三中山城高同窓会の会報「双ヶ丘」が創刊されると聞き、これほどうれしいことはありません。こ

れまで折に触れて生徒諸君には、京三中からの歴史を受け継ぐ本校



の伝統と格
式、また国内
外あらゆる分
野で活躍さ

れている先輩諸兄・諸姉の姿を紹介してきましたが、晴れて卒業後はこの会報をとおして、山城高校で学んだことへの更なる自信と誇り、大きな励ましと生きる勇気を与えていただくことと確信しています。

合わせて後輩生徒たちの学習や部活動で頑張っている姿や学校の近況などご報告させていただく場

になればと思っております。

ますますの同窓会のご発展をお祈りいたします。

上の写真は一番若い卒業生
(60回 八木睦乃)と一緒に

思い出

三中31回 平井 邦男

会社も息子に委譲し、趣味はパソコン、卓球など、お陰様で齡の割には元気に暮らしております。私の三中時代は一年からボート部に入部し、シーズン中は毎日曜、蹴上から京津電車でオールが預けてある大津の桑田宅まで行き、艇庫へ瀬田川の石山まで漕いで練習に行った。

試合前は勉強も早く切り上げ、

京都駅から汽車で石山まで出掛け、瀬田川で練習、帰宅は九時ごろになり、腹ペコであった。学校ではプールの下の部室のバック台で練習し、夏季合宿は琵琶湖一周。竹生島の三角波に会い、遭難しかけ、浮御堂に退避した。腹筋が痛くなるが、お陰様で高齢になっても筋力はある。又シーズンオフにはラグビー部から応援を頼まれ、冬季・夏季と暇無く運動した。よく三高・寺田のグラウンドで試合した。両部とも先輩が亡くなり、昨年までラグビーのOB会に在籍していたが退会した。ボート部の音信がないので寂しい。たしか両部長は大塚(国語) 金子(数学) 先生と思う。

是非ボート部の方と語りたい。勉強せずに自由を求め、四年修了

で慶大予科に入学、その後昭和18年の学徒出陣で仏印に進駐、22年に帰還復学した。ヤンチャでいたからこそいい思い出が多く残る。旧ボート部の方、おられたら是非ご連絡ください。

京三中と私

三中35回 大島 達也

梅屋小学校四年生るとき父を亡くした私は、好意あるスポンサーのお蔭で、中学校へ進学することができた。

さて、どこの中学校を受けようか。

小学校で私は剣道と水泳と体操の選手をしており、六年生るとき剣道大会が京三中であつてそれに

出場したことがあるので、迷うことなく京三中を選んだ。

入学して、教室のオンボロなのに驚いたが、そこへこわい顔をした五年生（さきの大戦で戦死された）が来られ、剣道部へ来いと勧誘され即座に入部を約束した。これが私の京三中生活のスタートである。

在学中の思い出等は枚挙にいとまが無いが、今回は卒業後のことを拾ってみた。

戦後、先ず私達三十五回卒業生の名簿を整理しようと数人の級友と相談し、当時四条通りにあつた時計店の家辺君の宅を根城にして名簿を作成し、昭和二十五年に第一回のクラス会を母校京三中で開いた。これが「京三中三五会」の始まりと云えよう。

昭和四十年代、私は仕事の関係で京都を離れていたが、西松正十三君が三五会の会長となり、極めて熱心に世話をし、三五会を確固たるものに育ててくれた。ところが残念ながら平成六年に西松君は病に倒れ、彼の遺言によって、私が三五会の会長に、藤本泰雄君が副会長となつて現在に至っている。

三五会は昭和五十七年以降は毎年総会を開催し（昨年は第三十六回）、その後、食事を年に三、四回、ゴルフを原則毎月、最近はメンバーが揃ったときに随時プレー（腕よりは口で勝負）して親睦を深めている。とくに二十一世紀を迎えるに当たって、全員が力を結集して作成した文集は、私達の宝である。（双陵文庫に保管）

（注）三五会の運営は、会長・

副会長と、毎年会長が指名する年度幹事二名（参議院方式で一名づつ、交替）の四名があたり、会長・副会長は年度幹事の相談役と対外用務（京三中・山城高同窓会の年度理事等）を担当している。年会費は無く、そのつど会費徴収。

食事は、数年前から河辺成徳君が熱心に世話してくれゴルフは荻野一彦君が担当してメンバー集めに苦勞願っている。

現在、「京三中・山城高同窓会」の年度理事に藤本君と私と、まさに一言居士といわれる二人が担当しており、三十五回卒は同窓会で一寸煙たがられている（？）存在であろう。

昨年「双陵クラブ」再々発足にあたって、三十五回卒の中には現

行の三五会で十分、屋上屋を重ねるような双陵クラブは不要、という空気が強く、発起人・幹事である私も少々手こずっている次第である。

参考までに、三十五回卒業生は約二百人、現在死亡未確認九十人、連絡可能五十人、平均年令は八十二歳である。

また、私の所属していた京三中時代の剣道部は先輩が優秀な成績を収められ、表彰状が剣道場の周囲の壁を埋め尽くしていたが、終戦後GHQ（連合国軍総司令部）の命令で剣道、柔道が禁止されたため、剣道部は廃部となった。

昭和二十五年に柔道が、昭和二十七年に剣道が許可され、昭和二十八年に山城高校剣道部が創設されて、京都府下でも優秀な成績

を収める活動をしてきた。

現在OB会として「京三中・山城高剣友会」があり、監督を派遣して現役部員の指導に当たらせると共に、新格技場に「尚武館」の道場開きに際して、和太鼓と現役部員全員に木刀を贈呈し、その後、試合用黒胴と剣道衣を贈呈する等、剣道部の発展に後援し、併せて現役・先輩相互の親睦を図るための活動をしている。

剣友会の現会員に京三中出身者として、三十四回の湖海昌哉、三十五回の大島達也、三十八回の松田恒知の三名が所属しており、三十五回の私が永年監事をつとめている。再々若い会員と幹事交替を申し入れるが、京三中とのつながりを保つため…との理由で交替を認めて貰えないでいる。



「礼に始まり礼に終わる」。我々の学んだ、学んだものは「剣道」であつて「剣術」ではない。剣道を通じて人と

しての生き方を学ぶという心を忘れてはならない。京三中時代の剣道部の伝統を継承しようとする私は、こゝでも一言居士として現存しているのだろうか。

「おお三中その名ぞ吾等が誇り」



卒業の思い出

—(たった二十九人の卒業)—

三中三八回・山城五回 高林藤樹

上の写真は昭和二十一年三月某日に行われた卒業式の記念写真である。数えてみると卒業する生徒は二十九名で、先生は三十一名である。平成十三年に発行された同窓会名簿には、三中第三十八回生として昭和二十一年・二十二年卒業となつている。戦前、旧制の中学校は五年制であつたが、戦況悪化に伴い四年制に短縮された。そのため三中三十七回生は昭和二十一年に四学年修了で五年生と一緒に卒業している。つまり同じ年に二学年が卒業したのである。戦後、短縮は廃止となつて五年制が復活

したが、三十八回生は両制度にまたがっていたので二年度に別れて卒業した。私も卒業した。(上掲の写真、上段左から四人目が私)

次の三十九回生(昭和十八年入学)は中学五年で卒業した人とはともかく、六年次を高校三年として山城第一期生になっている。ここで三中・山城が連続することになるのである。

それから五年の空白を経て私は復学したが、その時は三中の五年生ではなく、山城の二年生であった。僅か五年のブランクではあったが、戦前戦後(旧制→新制)という落差は大きかった。しかし、五歳年下の女生徒と楽しい学園生活が出来た。こうして、私は旧制中学と新制高校の両方の卒業生となったのである。

ナツメロと私

三中39・山城1 押谷誠之助

昭和十八年に京三中に入学、外には出ませんでした。が、学校での学徒動員にも参加し、飛行機の部品を作っている三年の夏に終戦、昭和二十三年の春に卒業、そのまま山城高三年に編入され、翌昭和二十四年に新制の山城高第一回の卒業生となりました。とにかく旧制京都三中の卒業生の中では一番若手ですが、今や昔の年の数え年では傘寿、八十歳となりました。私の父は戦前(昭和十年頃)から三中・山城の歯科の校医をしており、そのあとを引き継いで小生も、山城高校の校医となり、一昨年の春息子

と交替しました。

私の父は従業員(代診の医者とか技工士、或いはその見習)に非常に厳しい人でした。私の二歳ぐらいのとき、その人達は一策を案じ、夜になると私を肩車に乗せて、一寸散歩に行っていました。父の諒解を得て、行った先はカフェー。店に入れば私はもう邪魔者。女給さんに預けられます。そしてカウンターに坐られます。横には蓄音機があり、いやでもその頃の歌が耳に入ってきました。

このようにして私は小さい時から、流行歌の世界に放り込まれました。その結果、三十歳頃からポツポツと昔なつかしいSPレコードを集めはじめ、現在では日本でも有数のコレクターと言われるよ

うになりました。今は本職の歯科医の方も息子に譲り、レコード会社、放送局、或いは古い歌の会（いわゆるナツメロ会）相手の忙しい毎日です。

山城高校校歌

歌い初めの日

山城五回 孤野美代子

昭和25（1950）年、憧れの山城高校に入学し、一年先輩のSさん（後に阪急バスのガイド）の誘いで、合唱団（YCC）に入部した。正式には合唱団であつたと思う。その年の夏、野球部は地区予選を見事に勝ち進み甲子園への出場を果たした。当時地区予選は衣笠球場で行われることが多かったが、優勝戦は西京極であつたと思

う。合唱団は毎回試合のたびに応援に行き、勝つたびに校歌（？）を歌つたものだつた。？を付けているのは実は、その時、まだ校歌がなく、京三中の校歌の“おお、三中”の箇所を“おお、山高”と変えて歌つたのであつた。こんな末尾のみの替え歌を提唱し、みんなを指導したのは二年生のH先輩であつたと思う。お蔭で私は京三中の歌が今も歌える。

秋になり、何月何日か定かではないが、あの木造の旧校舎の音楽室で練習していると、部員の誰かが、顧問のY先生かが、速達を手にし、急いで教室に駆け込み、「校歌が出来たぞ！」という意味の言葉を叫んだ。誰かが歌詞を黒板に書きはじめた。Y先生がピアノを弾き、コンダクターのA氏が棒

を振り、部長のN氏、先ほどのH氏、二年生のK氏（この方は後に大谷楽苑―東本願寺の合唱団―で歌つておられた）、美人で同年のIさんUさん（二人とも故人）、帰り道一緒だつたOさんなど、みんなでピアノを取り囲んで何度も歌つた。この日こそ、実に記念すべき「山城高校校歌」歌い初めの日であつた。

この日と前後して、我ら合唱団は毎日新聞日本学生音楽コンクール関西の部で第二位となつた。大阪の毎日新聞ホールに歌いに行つた。関学、山城、京女の順で賞に入つた。公立では一位である。課題曲について、自由曲はドボルザーク作曲『新世界より』第二楽章からの“Going Home”（邦題だつたかも）であつた。コンク

ル直前の日まで、毎日放課後、練習のたびごとに曲想をつかむためにと、そのレコードを聴き、後は合唱の特訓を受けたものだった。

百均の立ち飲み店

山城十二回 岸野 洋

紺地の暖簾に百と染め抜いてある。百の下は英語で「100 in Standing Bar」と綴つてある。要するに立ち呑み百円店だ。東洞院錦東入ル、京都大丸の北口正面側で、通りがかりに入った。店内掲示、ひやつくりが出そうなほど百また百……だ。

ビールを生もシングルで百円だ。まず一杯頼んで、一個百円おでんの黒板メニューから大根とゴ

ボ天とこんにやくを選んだ。左右にカウンター、真ん中にテーブル三つ。満員で二十人は入れそうだ。店員さんは男女二人。儲かっている？と聞くと、バイトなのだろう。「二年も続いているから、いいんじゃないですか」と。なるほど、そのとおりだ。

夕方六時半ごろ、店内の客は七、八人かな。芋のお湯焼酎、白ワイン、塩鯖とヒジキを追加した。安い百円の塩鯖、店内の電子レンジで、チンして席に戻った。隣の客は血液型のこと、後ろの四人連れは職場の給料のこと……話は筒抜けだ。外人さん、テーブルで一人、英字紙を読む。待ち合わせか、勤め帰りの一杯か……みんな人生背負っている。それで支払

い、チャージ代百円含め900円なり。百均の立ち呑み、それもまた人生！

第二号の発行に向けて

山城十四回 丹保重雄

私は平成十一・十二年の二年間、職員として山城に勤務しました。当時副会長であった森先生が同窓会の下支えを中心的に担っておられたように思います。

私は学校側の人間として同窓会の事務に少し関わったことがきっかけで退職後も同窓会の仕事を手伝うようになりました。

確か会報は平成十八年の年度理事総会で発行が確認されたと思います。しかし、創立百年記念行事

の実施や同窓会ホームページの立ち上げなどがあって、会報発行の準備は完全に止まっていました。

先日、高林先輩が私の職場に立ち寄られ、三割方出来ている会報を見せて頂きました。発行が遅れていることに怒ることもなく、お一人でここまですすめてこられました。卒業式の日には第一号を発行するという意気込みには頭が下がりました。「第二号からはお前らが汗を流して作れ」というサインだと思っています。

しかし、個人だけの力では継続的な発行は無理ですので、役員会などで会報発行体制を早急に立ち上げなければなりません。広報委員会の常設と協力して頂ける方の確保が必要です。会員みなさんの協力をお願いします。

初めての同窓会の報告

山城第十九回 中村美知子

ビートルズの音楽と共に青春時代をむかえた私たち山城19回卒業生は、平成20年4月19日に還暦を祝して卒業後初めての同窓会が京都ロイヤルホテルにて執り行われました。

卒業後42年を経て既に他界された先生方もおられた中で森貞男先生と細川磐先生をお迎えすることができたことは幸甚でした。

同窓会役員さんたちの努力で各クラスの名簿が出来上がり、各会員に案内を送り、同窓会の当日までほぼ一年がかりでした。東北から九州まで住所確認の為に相当数の電話を通じての作業でした。

同窓会当日、ロビーで山城高校時代の写真をスクリーンに連写投影し、受付カウンターには各クラス集合写真をパネルにして飾りました。188人の出席者の見守る中で先生方への花束贈呈の後、物故者への黙祷。乾杯による宴開始。間もなく同窓生によるバンド演奏。歓談の後には応援団の指揮の下、校歌並びに応援歌斉唱。みんな高校生のあの頃に戻っていました。

生涯を母校の傍で

山城二十一回 村山良人

店をするのなら是非母校の近くで……。その思いが叶い、三十年前母校である山城高校の傍で焼きたてパンの店を始めた。当時、学校には私達夫婦が教わった先生が

何人か居られ「頑張れよ！」と励まして下さったことが今も力となっている。昼休みには大勢の生徒が店に買いに出てくれた。数年後には校則で門が閉められることになったが、縁あって今は食堂の売店で販売させてもらっている。校舎もグラウンドも新しくなり、私が通っていた時とすっかり様変わりしてしまったが、食堂の賑わいは昔と同じ。楽しかった思い出と共に、こうして母校で仕事ができることに感謝し、今度は山城生の記憶の一ページに私の作る「ミルキーのパン」の味が残ってくれればと願っている。

先輩一年生として

山城六十回 八木睦乃

私は、去年の4月から龍谷大学瀬田キャンパスに通っています。この大学を選んだ理由は福祉の勉強をしたいと思ったからです。毎朝琵琶湖を見て通えるということも魅力の一つでした。というのも、私は高校時代にボート部に所属し、練習場所としてよく行っていたからです。注意が足りず顧問の先生に怒られたことや試合に負けたこと、藻にオールをとられて転覆したことなど苦い思い出も沢山ありますが、その中で学んだことや出会えた仲間がいたり、私にとって琵琶湖はとても思い出深い大切な場所です。

今はサークルで違う競技をやっていますが、天気が良い日の穏やかな波の様子を見ると、また漕ぎたいなあと思います。また、疲れ

ているときでも電車の中からふと見ると、あの頃のことを思い出して元気が出てきます。そうして高校での思い出を糧に、これから頑張っていこうと思います。

年次毎の取り組み紹介

◆三中29回（双鳩会）

毎月二十九日に例会を開いています。参加は五、十名。（幹事：松原健次郎）

◆三中34回（八八会）

昭和十八年卒業です。十八会と名乗っていました。高齡になりましたので改名しました。（幹事：吉田邦夫）

◆三中35回（三五会）

年一度の全体会のほかに食事会やゴルフ会があります。（会長：大島達也）

◆ 三中36回（麓々会）

◆ 三中37回（三七会） 毎年12月に総会を開いています。

◆ 三中38回（三八会） 毎年十一月に全体会を開催しています。その他に有志で「洛西三中全会」をやっています。

◆ 三中39回（さくら会）

◆ 三中40回（一九会）

◆ 右の他、卒業回期を問わず三中全会関係者有志で「双陵クラブ」を作っています。

* * *

◆ 山城2回（原則として隔年）世話人：森貞男

◆ 山城3回（山城クラブ）

四月・十月に会合を持っています。

◆ 山城4回（山四会）

ホームページを持っています。

二年に一回、五月に学年の総会をしています。東京地区に「東京山四会」があります。

◆ 山城5回（山五会）

山五会は全体の会で、この他に二八会、福互会、野本学級会、十一月一日の会などがあります。又、ゴルフの会もあります。更にホームページもあります。（会長：田崎央）

◆ 山城6回（山城六会、通称山六会）二年に一度、山六会総会をしています。

◆ 山城7回（五目会） 毎年六月に総会を開催しています。

◆ 山城8回（通称山八会）

不定期ですが、頻繁に開催しています。昨年（平成20年）は170名の参加があり、盛会でした。（幹事：水谷浩二）

◆ 山城9回（九思会）

全体会は二年ごとに、定例幹事会は毎年九月第一土曜日に行っています。

◆ 山城10回（山酔会）

毎月第三水曜日に集まります。

◆ 山城11回（山城十一回卒業同窓会）二年毎に開催。2008年10月は150名参加。東京支部あり、毎年十一月十一日、四、五十名出席。

◆ 山城12回（山城十二回同窓会）世話人 若林宗夫

定期的会合（今年は5月24日）情報は世話人がメールで発信しています。

◆ 山城14回（一四会）

ホームページを持っています。活動としてはゴルフ・カラオケなど定期的集まりがあります。

◆山城16回

代表世話人は持ち回り。同窓会は四年に一回、オリンピッククイヤーに合わせて集まります。

◆山城20回（山城高校第20回卒業同窓会）

一、二ヶ月に一回会合しています。二十二年二月に還暦同窓会開催予定。

◆山城22回（22会ニイニイカイ）

四年に一度オリンピッククイヤーに同窓会を実施しています。（世話人：伊藤令子）

◆山城25回（三、五年に一回）（世話人：南綾子）

◆山城26回

◆山城28回（四年に一度開催。）（世話人：中村哲也）

◆山城36回

定期的会合はありません。卒業以降、今迄に三回の同窓会を開

催しました。

◆山城40回

◆山城45回

彙報

◆谷野校長先生、定年御退官。

本部より

◆二月十八日、本部役員会（於本校応接室）出席八名、主な議題①今後の日程について②会報の発行について③その他

編集後記

◆社会で大事なものは「絆」ではないでしょうか。同窓で学びながら年数の経過と共に地理的にも世代的にも疎になり

兼ねない同窓会をつなぐのは「会報」だと思います。宿願の会報がやっと発行できることになりました。会員みんなで育ててゆきたいものです。

◆発行を卒業式の間に合わせようと急ぎましたので、聊かスリムなものになりました。将来は百年の歴史の重みに耐え、且つ、二百年の展望を見据えた会報にしたいと意気込んでいます。どうかご支援ください。

◆会報は年二回発行したいと考えています。次号は夏に、次々号は冬を目指しています。

同窓会会報「双ヶ丘」創刊号

二〇〇九年二月二十七日 発行

発行人 会長 森 貞男

編集人 5回 高林藤樹

（非売品）